きゅうり これからの管理

『雨除けきゅうりについて』

雨除けきゅうりについては、ハウス内が高温状態になる環境下になってきます。ハウス内が高温になればなるほど草勢低下による生育不良・乱形果の発生に繋がっていきます。できる限り開口部分を増やし、ハウス内の温度上昇を防いでいきましょう。

開口部分が多くなるにつれてハウス内は乾燥しやすくなってきます。常に通路が湿っている状態がキープできるよう、潅水を行なって下さい。また、必要とあれば朝夕１日２回の潅水も行なうようにしましょう。

整枝作業につきましては、できる限り混み合わないよう摘葉・摘芯を行なって下さい。この時、通気性も考慮しましょう。

品種によっては強摘葉・摘芯を行なうと側枝の発生が鈍くなることもあります。特にカレラにつきましては、一度の摘芯は避けるように注意して下さい。

追肥については、葉色を見ながら行なっていきましょう。急な色抜けの場合はＯＫＦ-１のような速効性の追肥を施用して下さい。

『露地きゅうりについて』

定植をする前には、必ずベットが十分湿るくらいの潅水を行ないましょう。また、定植後も鉢土が乾きすぎると活着不良を起し、側枝の発生が悪くなりますので、注意して下さい。

露地きゅうりにつきましては、雨除けきゅうりより圃場が乾燥しやすくなりる分潅水量が不足した場合には、著しく草勢が低下します。必要とあれば通路に水が溜まる位の潅水量を行ないましょう。

整枝作業については摘芯は控えめとし、摘葉を中心に管理していきましょう。

追肥につきましては、液肥の施用ももちろんですが、置肥の施用も行なっていきましょう。

『草勢維持・成り疲れ対策として』

草勢低下防止対策として、葉面散布・発根剤の使用を積極的に行ないましょう。定期的に行なうことが重要です。

〇葉面散布剤　：　パワフルグリーン２号　500～1000倍　　ベストⅡ　500～1000倍
〇発　根　剤　：　ＲＢパワー　１～２㍑/10ａ　　アミハート　３㍑/10ａ
※萎れ防止対策

定植後萎れが激しい場合には、蒸散抑制剤の使用も効果的である。

プロテック　200～300倍（単剤使用）但し、きゅうりが萎れている状態では散布しないこと。

プロテックの展着剤としての使用

プロテックについては倍数を薄めることにより展着剤としても使用できます。使用につきましては指導員へお聞き下さい。

『病害虫について』

今年は害虫の発生が多いようです。黄化えそ病の対策として定期的な農薬散布はもちろんのことですが、圃場内の環境整備・施設の防虫対策はしっかりと行なって下さい。

収穫終了後は、雨除けきゅうりにつきましては完全に枯れるまでのハウス蒸し込み、露地きゅうりにつきましては速やかな片付け後の残渣すき込みを必ず行なって下さい。

果樹園の管理（７月）

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。気温も高くなってきますので管理を充分に行い、病害虫の発生にご注意ください。

１．日向夏の管理

１）水管理

夏季に乾燥が続く場合や、傾斜地・耕土の浅い土地など乾燥しやすい園地では定期的にかん水を実施して下さい。また、かん水設備の無い園地は、梅雨明け前に敷きワラ、敷き草を行い土壌の水分蒸散及び養分の流出を防ぐ様にします。

土壌が乾燥状態となると、果実肥大が不良となりホウ素欠乏等の微量要素欠乏も発生しやすくなるので注意が必要です。

２）葉面散布の実施

果実肥大、緑化促進のため、葉面散布を実施します。

果実肥大…パワフルグリーン　２号　800倍

３）夏季剪定

剪定が不十分な園地では補足的な剪定を実施します。方法は内部まで十分に光が当るように間引き剪定を行って下さい。太い枝の切口については処理を行って下さい。アルミホイルを被せておくと新梢の発生を抑えることが出来ます。

４）病害虫防除

８月より袋掛けを行いますが、袋を掛ける際はハダニの防除を徹底しましょう。

使用薬剤…果樹農産課までご連絡下さい。

２．スイートスプリングの管理

病害虫防除

スイートスプリングは毎年、かいよう病、黄斑病等の被害が出ています。そのため、予防散布は必ず実施して、発病を抑えましょう。

台風通過後は多発生の恐れがありますので必ず前後に散布して下さい。

病害虫名	使用薬剤	使用倍数	使用方法
かいよう病	Ｚボルドー	５００倍	混用散布
	バイカルティ	１０００倍	

３．台風対策

これから台風の時期となります。事前に対策を行い、被害を抑えましょう。

—対策—
- 排水溝や土どめ対策を整備し、階段の崩壊や土砂の流出・流入を防ぐ。
- 幼木、若木や高接ぎ樹などは太い竹で支柱を立て結束する。
- 防風林の補強手入れを行う。
- 台風通過後はかいよう病等の防除を実施する。

※農薬の使用については、使用基準（適用作物、使用倍数、使用回数、収穫前使用日数等）を守って使用してください。

※近接園への飛散について十分注意して下さい。

連絡先……生産指導課　電話　７７－２２１６

露地野菜生産者のみなさまへ

梅雨が明ければ高温・強日射の中での作業になり、とても大変な事と思います。長期予報では７・８月は高温･乾燥傾向との予想がされています。反面、近年増加している局地的な大雨や今後の台風の影響などにより、作業がはかどらないこともあるとは思いますが、収穫は天気の良い日、又は土が乾いてから行って下さい。

乾かない状態が続くと、傷から病原菌が侵入･繁殖し、腐敗やカビの発生原因となります。選別・調整も風通しの良い、日陰などで行って下さい。

［これからの管理］

今後の大雨や台風に備え、排水溝を整備し、排水を良くして下さい。

晴天が続くとアブラムシ、スリップス、ダニ、ヨトウムシ等が発生します。予防策を徹底して下さい。

〇アブラムシ　～ シルバーテープの設置（反射する光を嫌い、寄生が抑えられる）

〇ヨトウムシ　～ フェロモントラップの設置（雄成虫の捕獲により繁殖を抑える）

〇ダニ・スリップス　～ 葉や茎に付きます。草勢が良ければごくわずかの発生なら生育への影響は少ないと考えられますが、増殖が早いので、多発状態では対応が困難になります。活性剤等の定期的散布により草勢を維持して下さい。

※高温･乾燥により害虫は多く発生しますので、スプリンクラー等で散水し、乾燥を防ぐと発生が抑えられます。

・里　芋・

芋が最も肥大する時期に晴天日が続くと土壌が乾燥し、水分不足となります。里芋の乾燥による影響は収量・品質ともに大きいため、灌水（散水）可能な場所では５～６日間隔で１回の灌水（散水）量20～30mm程度を目安に灌水（散水）を行って下さい。

マルチを除去した所では土寄せを行って下さい。また、元肥が少ない所や雨等で肥料が抜けた所では追肥（粒王７号２～３袋、草勢を見て）も行って下さい。

乾燥する事によりヨトウムシ・アブラムシ・ダニ等の発生が多くなります。発生が見られる前の予防策を行って下さい。（産直契約出荷分は農薬の使用はできません。）

・白ネギ・

高温・乾燥により害虫の発生が多く見られます。予防策を徹底して下さい。定植後40～50日が初期生育の旺盛な時期である為、土寄せと一緒に追肥も行って下さい。第１回目の土寄せから20～30日間隔で、除草も兼ねて土寄せを行って下さい。

軟白部分の長い品質の良い白ネギを生産するためにはかかせない作業です。除草も必須です。適期の作業を行いましょう。

・人　参・

尻詰まりしてきたら収穫適期です。出荷規格に基づき収穫出荷を行って下さい。収穫は、土が乾いてから行って下さい。土がついたままでは腐敗の原因になります。うどんこ病が発生している圃場は早めに収穫して下さい。

・甘　藷・

定植後、100～120日が収穫適期になります。栽培期間中、雑草が多かった圃場では早めに収穫をするようにして下さい。

排水不良による腐敗等も予想されますので、排水溝の整備も行って下さい。

・かぼちゃ・

果梗部全体にコルクがまわったら収穫適期です。未熟果の収穫は腐敗の原因となります。収穫後はキュアリングを行い、完全に風乾を行って下さい。

＜キュアリングと風乾について＞

キュアリングとは風乾前に果実をハウス内の高温条件下に置き、収穫時の傷口をコルク化させたり、病原菌の抑制、果梗部の乾燥を促進させ、出荷後の腐敗を抑えます。

風乾については、キュアリング後に果実を乾燥させ、澱粉質から糖質への移行を促進させます。

－方法－

（１）ハウス内に台を作り、スノコなどの上に南瓜を重ね、日焼け防止のためにムシロをかぶせる。

（２）ハウス内を密閉して35～40℃の状態を１時間行った後、直ちに換気し温度を下げる。

（３）この作業を２回（１日１回×２日）行い、直ちに風通しの良い日陰に移し、１週間程度風乾する。

（４）梅雨時期など湿度が高い場合は、扇風機などを利用し、果実の乾燥に努める。

夏・秋作の準備に向けて

春作終了後、次の作付けを行う前に土作りを行いましょう。

完熟堆肥の施用は作付け１ヶ月前までに行って下さい。年に１度は施用しましょう。また、未熟堆肥の使用は、病害虫や生育障害の発生要因となります。必ず完熟堆肥を使用して下さい。

センチュウ対策などには、ソルゴーなどの緑肥作物を作付けし、播種から50～60日後にはすきこみできます。

土壌分析を行いましょう

圃場の土壌状態を把握することにより、適切な施肥・管理を行うことができ、品質のよい作物を生産することができます。収穫終了後、堆肥を施用する前に土壌分析を行って下さい。

過不足による病虫害の発生や、生育障害などの問題がありますので、分析を行ってから施肥をして下さい。

詳しい内容は開発センターまたは販売・生産指導課までお願いします。

問い合わせ先：販売・生産指導課　７７－２２１６